

瑞穂町教育委員会
教育長 鳥海 俊身 様

瑞穂町立瑞穂第四小学校
校長 高橋 一広
(公印省略)

令和4年度 学校評価報告書

1 自己評価

(1) 評価及び成果と課題

評価項目	評価	R3評価	成果	課題
1 学力向上	B	B	○自主学習等の学びに向かう力の育成 ○「学びに火をつける」実践	○個別最適な学びの実践 ○ICT機器の効果的な活用
2 健康・体力	A	A	○コロナ禍を見据えた感染症拡大防止対策の徹底 ○運動の日常化	○気力・体力・運動能力の向上 ○体力低下から気力低下へ
3 道徳教育	B	B	○挨拶の励行 ○言語環境の整備	○「議論する道徳」の実践 ○人権尊重教育の推進
4 特別支援教育	B	A	○連携協力体制を深める ○学習の見通しをもった環境整備、ユニバーサルデザイン	○個に応じた指導の工夫 ○関係機関との連携
5 生活指導	A	C	○児童が安心して相談できる体制づくりの推進 ○一貫性のある指導 ○組織的対応	○危機管理能力の育成 ○基本的な生活習慣の確立
6 研修・研究	A	A	○校内研究の充実 ○校内OJTの充実	○研究・研修会への参加 ○研修内容の共有化
7 家庭・地域の連携	A	B	○教育活動の情報発信 ○開かれた学校づくり	○地域との連携及び人材活用
8 経営・組織	B	B	○校務分掌の効率化 ○工夫した授業の共有化 ○学年間での教科担当の工夫	○学校運営への参画 ○役割と責任を持たせた人材育成

2 学校関係者評価

(1) 主な活動

月日	会場	協議会内容等
令和4年7月7日	瑞穂第四小学校	令和4年度の学校経営、1学期の教育活動
令和4年10月22日	瑞穂第四小学校	教育活動中間報告
令和5年1月17日	瑞穂第四小学校	学校評価(自己、児童、保護者)、関係者評価

(3) 学校関係者評価で出た主な意見等

- ・学校の子供たちも、とても落ち着いて授業を受けている姿が印象に残っていて、すばらしいです。
- ・保護者の方のマナー、ルールも以前に比べると、とても良いと思います。
- ・校長先生の礼儀・構えのお話がよく伝わっているのだと思います。
- ・アイパット利用、学びのテーマパークの取組もすばらしいと思っています。
アイパットを家庭に持ち帰れる、オンラインも利用できるようにしてほしいです。
- ・先生方は数多くのリスクがある中で、児童たちのために本当にありがとうございました。
その先生方の頑張り、熱意というものが、保護者をはじめ、地域の方々、町、関係各所に伝わり、そして連携できるような流れをつくるべきだと思っています。
次年度は違う立場から、四小のためにお手伝いできたらと思います。
- ・朝の通学の時の挨拶ができる子供が増えてきてよかったと思います。
- ・先生方も地域の方もまじめに取り組んでいると感じました。
- ・挨拶もよくできていると思いました。
- ・参観の時も仲良く、思いやりのある授業態度など、好感度が良かった。
- ・ICT機器はとても楽しく活用できそうなので、頑張ってください。
- ・長年民生児童委員をやらせていただき、その間皆様方のご協力、ご指導をいただき、深く感謝申し上げます。今後も何かお手伝いすることがございましたら、お声掛けください。
- ・先生方ががんばっています。もっとその点のアピールを。
- ・HPを見てもらうのはなかなか難しいですね。学校メールとかを活用して…とか。
- ・ICT教育の充実については、他市町村の活用事例なども参考にして、活用場面を増やしてほしい。

3 今年度の学校経営計画の実現状況について

重点事項 1	学力向上
(1) 取組状況	「確かな学力の向上」 ○学習規律・学習習慣を確立する。 ○思考力・判断力・表現力を育成する。 ○基礎的・基本的な学習内容を定着させる。 ○ICTの効果的な活用
(2) 成果	○学習に向かう姿勢「身構え・心構え・物構え」を教室掲示し、指導の徹底を図った。 ○放課後学習「学びのテーマパーク」で「自主学習ノート」に取り組みせ、児童が自ら進んで学ぶ力を育んだ。 ○「家庭学習の手引き」を作成し、学習方法の周知を図った。 ○ICT機器を、各教科のどの場面で活用したら効果的かを検証した。
(3) 課題	○個に応じた指導の徹底。 ○学習内容の理解に個人差がある。 ○家庭学習が定着しない、忘れ物がなくなる、などが課題である。 ○自主学習へ取り組む意欲の二極化。
(4) 次年度に向けての改善策	○児童一人一人の実態に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現。 ○家庭学習の手引きに基づき、習熟度別の課題を設定し、できた喜びを味わわせる。 ○課題設定の方法やまとめ方の周知徹底を図る。また、見本ノートの掲示、管理職によるノート確認等、意欲を高める取組の強化を図る。

重点事項 2	生活指導
(1)取組状況	<p>「組織的で計画的な生活指導」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が安心できる相談体制を確立する。 ○児童の危機管理能力を育成する。 ○基本的な生活習慣を身に付けさせる。
(2)成果	<ul style="list-style-type: none"> ○SCや専任相談員による全員面接等を通して、児童の居場所づくりの周知を行った。 ○「安全教育プログラム」や「SNS東京ノート」等を活用し、毎月の安全指導や日々の一声指導を徹底した。 ○子供と家庭の支援員等の関係機関と連携し、登校を渋る児童へのアプローチを行った。
(3)課題	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭との連携がなかなかとれず、不登校の解消が難しい。 ○頭でわかっても行動が伴わないなど、粘り強い意識付けが必要。
(4)次年度に向けての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○組織的に「迅速・的確・誠実」な対応を行う。 ○不登校対策を組織的に行い、居場所づくりを工夫する。 ○全校児童を全教職員で見守り、社会性や規範意識を身に付けさせ、一貫性のある生活指導を実践する。
重点事項 3	道徳教育
(1)取組状況	<p>「豊かな心の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人権意識を高め、道徳的な心情や実践力を身に付けさせる。 ○「時を守り、場を清め、礼を正す」の掲示、指導の徹底 ○「思いやりシート」の活用や「なかよし川柳」の取組を通して、心の通う対人関係の素地を養う。
(2)成果	<ul style="list-style-type: none"> ○「考える道徳」「議論する道徳」の実践を図り、道徳的な判断力、心情、意欲と態度を育てる指導方法を工夫した。 ○相手を思いやり、自分から気持ちのいい挨拶や正しい言葉遣いを実践できた。 ○道徳授業地区公開講座で「子どもたちの不安によりそうために」という演題で、スクールカウンセラーによる講演会を実施した。
(3)課題	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の人権感覚を磨き、児童に模範を示すことができるよう「みずほあつたか先生」を活用し、人権意識を高める。 ○「特別の教科 道徳」の授業改善を推進する。
(4)次年度に向けての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○「特別の教科 道徳」の授業を要とする教育活動全体を通して、道徳教育の充実を図る。 ○道徳授業地区公開講座のテーマを明確にし、学校・保護者・地域の相互理解を深め、連携して豊かな心の育成を図る。 ○多様な関わりを通して、自分の将来に夢や希望をもち、その実現に向けて挑戦しようとする態度を育てる。